

飴をあげる

成島秀和／セリザワケイコ

● 登場人物 ●

カーコ
幸太郎
ネット
猫
おばちゃん、清掃員

● 第1場 ●

夜の道を、幸太郎がすすむ。

幸太郎

恋人よ……あなたが無理だと思うのはキャパシティー以上のことをやっているからです、二股かけているからです。例えば日本酒二股いかんでしようの巻はじまります。熱爛もひやも、あなたどちらも好きかもしれないけれども同時に口に入れたらただのぬる爛、以上二股いかんでしようの巻。僕は今日、あなたの言い訳のようにぬるーい日本酒飲んで、でも喉はあつくてあつくて泣きました。ひとつの口から二つの瞳へ。口から右目へ、口から左目へと川が二股に分かれてゆき、ああ、ここでも二股かよ……恋人よ……二股はいかんだろうの怒りと戻ってきてくれのさびしさが激しくぶつかり合って、僕の顔に川が流れているんですよ、レンガの上のあなた。

猫のことである。

幸太郎

あなたは、僕のは、恋人ではない。

猫

はい。

幸太郎

猫ですか？

猫

はい。

幸太郎

僕は、猫ですか？

猫

いいえ。

幸太郎

酔っ払いですか？

猫

はい。

幸太郎

恋人は戻ってきますか？

猫

はい。

幸太郎

困りますか、ええそうですか猫ちゃん困っちゃいますか。

猫

はい。

幸太郎

それなら僕は寝転んで、真っ暗闇に話しかけますから。

猫

おやすみなさい。

夜の道を、幸太郎がすすむ。

幸太郎

月あかりがない帰り道は、進めど進めど暗闇で、緑と白と水色の、立ち読みの聖地ファミリーマートまであと100メートルが果てしなく長くて、手の届かないファミリーマートの道の脇、真っ暗闇の中かすかに浮かび上がる、すわり心地のよさそうな深夜のゴミ袋。がさ、ごそ、がさ、ごそ。僕は、ゴミ捨て場からもう、動けない。居心地のよい真っ暗闇に吸い込まれて、からまれて、ゴミ捨て場に涙を捨てる。

ゴミ捨て場には、カラスのカーコ。

カーコ
明日の朝は燃えるゴミの日ですから、息をひそめておりました静かに、カラスのわたくし。燃えないゴミの日、資源ゴミの日を越えてやってきた燃えるゴミの日、待ちわびていた生ゴミの日ですから、じいっと息を殺して、色もなく、影もなく、真っ暗闇のゴミ捨て場で風景になっておりました。しかしながら私は、私の隣で誘惑するゴミ袋の向こう側のよき匂いに耐えられず、意識とくちばしだけを真横に向けて、静かに、静かに、くちばしを差し込みまし、ぷすり、ん？ ああ、そうね、ここは斉藤さんのとこね、いつもいつも、食べ物や粗末にしてくださいましてありがとうございます、で、先つちよで掴んだまあるくてちっちゃな飴玉。

カーコ、嘴の先の飴玉に見とれる。

ネット
いつもそう、あんたらカラスは、私の網の目をかいくぐってやりたい放題。やんなっちゃうわあ。

あなたはどなた？

カーコ
ネット。

カーコ
ネット。カラスよけのネット。通称、ネット。

カーコ
私よけられてる？

ネット
よける。

カーコ
実際は？

ネット
すり抜けられてる。

カーコ
そうですねえ、そうなんですネットさん、いつもいつも警備ご苦労様でございますが、あいにくわたくしの嘴は毘や警備をすり抜けるためについておりますから、意味がないのです、に対するお言葉どうぞ。

ネット
いらいらする。

カーコ
いらいらされてもネットさん腕無、脚無で身動きとれませんか？

ネット
だから今日は、念じる。

カーコ
念じる？

ネット
私にからまって身動きとれなくなれ。それでゴミ収集車のローラーに巻き込まれる。

カーコ
やあよー。といじわる言ったわたくしの嘴に、ちっちゃな飴玉。いじわるとびかぴかのコントラストにうっとりして、うっとり顔でちらっとネットのこことを見ていい気分になったそのとき突然、

幸太郎、転がり込むように、カーコの目の前に登場。

カーコ
転がり込んできた人間の顔。目の前に、顔。

幸太郎
やあやあ真っ暗闇。僕の涙をあげよう。僕のとっておきの、哀しい哀しい涙をひとつぶあげよう。

と、涙をひとつぶ、カーコの目の前にかざす。

カーコ
……きれい……涙、きれい。きらきらしてるからそれ、ほしい。

幸太郎
まっくらくらのくらやみに、きらきらひとつぶぼちよんと落ちて、ミルククウンできたなら、あんたのハートに伝えてよ。あんた、ただいまお

姫様。真っ暗闇から現れたかわいい、かわいい、お姫様。

カーコ
お姫様……。

幸太郎
プリンセス・プリンセス。

「ダイヤモンド」の音楽に合わせて、カーコと幸太郎が踊る。

カーコ

ふわふわする、ようなしないような、いやするんですしてるとすふわふわ。これは恋、恋の無重力だ。世界がゆらゆらゆれてふりこをゆらす、世界に催眠術をかけられてしまいました、くらくらします、くらくら、くらくらくらやみわたくしの視力今0、05。もうあなたしか見えない。あなたしか見えない好きすぎて脳みそゆれて足取りよちよちって赤ちゃんみたいにふらふらしちゃってわたくしなんでかうっかりネットに脚をとられたか、かっつ、かかったなああ！

ネット

ネットが、カーコにからみつく。

カーコ

！！！！

ネットは、複雑にからみつくこうとする。

幸太郎は、それを制して、

幸太郎

なんだお前、ネットに足がからまっちゃってんじゃん。しょうがねえなあ。こーして、こーして、ほだいてやりますよっと。ん？ お前、飴くわえてんのな。カラスはキラキラしたものの好きだもんな。はは、かわいいなあ。ねえあなた、わたくしの目の前の殿方。カラス風情が何を言うのかとおっしやるかもしれないんですけど、わたくしは今すぐく、すぐくカーしたい。すきという意味で、カー、カーしあいたい。

カーコ

幸太郎

(カーコを見る)

緊張の、一瞬。

カーコ

(見つめあい) カー。

幸太郎

カーコ

カー。

幸太郎

カー。

カーコ

カー。

幸太郎

カー。

幸太郎

カー。

カーコ

カー、カー、カーコといいますわたくしハシブトガラスという種族、鳥目スズメ目カラス科カラス属ハシブトガラスです。あまたのカラスおりますから、見分けつかんと申すでしょうが、ガーと鳴きますハシボソガラス、カーと鳴くのがハシブトガラス。濁りのない高音のわたくし、五線譜みたいな電線の上の方、ドレミハソラシドの、シのところを羽を休めていつもいつも、鳴いてますからー！！！！

いつのまにか、幸太郎は消えている。

ネット

いないよ。

カーコ

え……？

ネット

青年はもう、おうちに帰りました。

カーコ

どうして？

ネット

朝だもん。

カーコ

早い。

ネット

山のハ群青、腕を伸ばした朝日がラジオ体操してる。

カーコ

まだ何もしてない。

ネット
カーコ
ネット
カーコ
ネット
カーコ
ネット

してないし？ できないし。
できる
気がするだけ。
太陽に睡眠薬を飲ませてくる。
焼かれて御終い。
だって今、なんでもできそうな気がしてる。
真つ暗闇の魔法はもうとけてるよ。あんたはただのカラス。さっさと帰れ。

おばちゃん
ネット

おばちゃんが出てきて、ほうきでカーコを追い払おうとする。
しっ、しっ。

おばちゃん
カーコ

今日の収穫はその嘴の飴だけでいいだろ。そいつ銜えて、早く森に帰れよ。
しっ、しっつたら。
執拗な人間のシ、シに、思わずわたくし人間ファックでしたけど、電柱のシのところまで避難したとき、

カーコは、電柱の上に避難している。

カーコ

朝日とわたくしの間、なににも隔たれてなくて、飴がキラキラ光って、嘴の先から光の消しゴム現れて、キュツキュツキュツと、人間ファツキュな気持ち消えて。意識も失っちゃいそうなくらい飴はキレイに光る。どこまで届いてるかわからんですけど、わたくしの半径何千メートルの間にこんなキレイなものがあるかしら、ないでしょうっていう飴の実存、飴による存在の主張こそが、わたくしの恋の結晶にふさわしい、ふさわしいんだ、あなた、とゴミ捨て場を見ると、

幸太郎が、ネットのところに、ゴミ袋を捨てていく。

カーコ

あの人がネットの中に、あの人のゴミを捨てている、バス停へと走っている。あの人のゴミを今、ネットが抱えている。

カーコ、ネットの近くへ。

ネット

絶対こっち来ると思った。

カーコ

え？ 何のこと？

ネット

とぼけちゃって。こちらにありますのはー、昨晚、一羽のカラスが恋に落ちたー、人間のー、生活から零れ落ちましたるー、ゴミ！ 袋！

カーコ

よごさないでね。

ネット

…むりだなあ。

カーコ

え？

恋人のしずくが欲しくてしょうがないカラスは…：…なりふり構えませんから。

カーコ、ネットをどけて幸太郎のゴミ袋に対峙。

嘴の先の飴を地面に置き、

幸太郎の捨てたゴミ袋を破り、

中身をむさぼる。

カーコ

こんなに分かり合えることは他にない絶対。薄緑色の封筒の表紙に書いてある名前。あなた幸太郎さんというのね、どうもどうも幸太郎さん、あなたこのところ納豆ばかり食べてらっしゃる、わたくしも大好きですから今度一緒にわたくしの嘴と幸太郎さんの口先から糸を伸ばし遊びましょう。にんじんじゃがいも皮のむきすぎ最高、いや何より最高なのは、まっしろに包まれたおいしいあなたのしずく。緊張の一瞬。

「ピー、ピー」と、ごみ収集車の音。

ごみ収集の作業員たちが入ってきて、ネットの近くのゴミを運んでいく。

そこにおばちゃんも出てきて、再びカーコを追い払おうとする。

舞台上に残っているのは、ひとつ。

幸太郎のゴミ袋のみ。

収集員がそのゴミ袋に手を伸ばす、

カーコ

お願いわたくしの彼を思う甘い時間を奪わないでいただきたいどうかお願いしたいお願いします、なんでもします、このまま時間を止まったらいいと思ってるんです、そういう瞬間生まれてこのかためったになかったんです、めったどころか一度もなかった、ポジティブな意味では特になかったそれが今、あるんですわたくしのこの嘴が閉じ込められた幸太郎さんの小宇宙を切り裂き3次元の世界に引きずり出しているという奇跡、わたくし史上最初で最後の奇跡を、どうか一滴も零さず、みていただきたい、見ていただきたいのです！

作業員は、容赦なく、幸太郎のゴミ袋を運んでいく。

カーコ

カー……！！！！！！

● 第2場 ●

別の日の夜。ゴミ捨て場（ネット）。

幸太郎が、懐中電灯を使いながらゴミ袋の中を漁っている。

その隣には、カーコ。

餌をくわえながら、幸太郎の様子を見ている。

幸太郎

ああ……これだよなあ、僕の……つかしいなあ……。

隣で見ているカーコを見て

なあカラスちゃんよー。お前、探すの得意か？

カーコ。

カーコ。

カーコ。

カーコ。

その飴みたいにきらきらしてるやつ、探してんだ。

カーコ。

幸太郎
カーコ
幸太郎
カーコ
幸太郎
カーコ

カーコ、飴を置いて、ゴミ袋をつつき始める。

幸太郎

カーコ

……カラスって頭いいんだな。

(自分の顔を幸太郎の顔に近づけ)カー。(と鳴き、再びゴミ袋をつつく)

猫が入ってくる。

猫

ネット

人間と……カラス……。

猫

さがしもの。

ネット

さがしもの？

猫

うん。こいつ、人間のさがしもの手伝ってんの。

ネット

へえ。へんなの。

猫

うん。へん。

ネット

人間のやつ、自分で捨てたものの中からなんか、探してんの？

猫

うん。

ネット

へえ。へんなの。

猫

うん。へん。

ネット

何探してんの？

猫

さあ。

ネット

うん。

猫

なんか、餠みたいなのやっだってさ。

ネット

へえ。餠？

猫

餠。(置いてある餠をさして) それ。

満月の下、懐中電灯の灯りと、餠の光。

幸太郎とカーコは、さがしものを続けている。

幸太郎

誰もいないゴミ捨て場、満月のあかり。で、僕はさがしものをする。隣には真っ暗闇のカラス嘴でつんつくゴミ袋をつついていくピアノみたい音楽聞こえて、

音楽が、聞こえる。

幸太郎

カーコ

あーそれ楽しそうね、ちよいと僕もやってみますと、やってみましたところ指先からピアノスト気分溢れて。

さがしものなら得意ですからわたくし、食料選り分け、きれいに敏感なわたくしですから、小宇宙の中の有機物とキラキラ銀河の存在、全身使ってついでに作業らくちん楽勝。あーたのしいね、たのしいよ。

白と黒のコントラストなくて、全部黒、黒、黒のシャープ&フラットの心ふわふわ浮き沈んで僕は今ここにいない、半分世界からずれて音楽ひいてますゴミ袋の中の指変な気分あーたのしいね、たのしいなあ。自分の捨てたもの探す、あほうなさがしものがたのしくなっちゃうなんてこれ、お前の魔法かね。

カーコ

人間の子供よく言いますカラスはのろいを、のろいをかけますから近寄ってはいけませんいけまへん変になるからといいますが、のろいをかけるなんてナンセンスオブカラス。たのしくなる魔法体中に書いてあるからカラス黒いんです、よく読むと文字だらけ、この黒色全部たのしき濃縮ぎゅぎゅつと100パーセントで生きてますから何言われても大丈夫、だいたいようぶで生きとりますゆえ、魔法のおすそわけです。

幸太郎

カーコ

それにしてもあほうなさがしもの、なかなか見つからんなあ。

見つからなくていいんです、だって幸太郎さんが探している餠のようなきらきら、今ここにありませんから。どうぞさがしもの見つからず、あほうあほうなわたくしをお持ち帰り下さい。

猫・ネット
カーコ
猫
ネット
カーコ
猫・ネット
カーコ
ネット
カーコ
幸太郎

おい、カラス。
なんだネットと、猫。
そんな風に恋にのぼせると、雨が降るよ。
ざーざーとノイズの雨が降りますよ。
降りません降りません、だつて今宵はすばらしい満月ですから、空にもきんぴかの飴玉がぼっかり……と思つて空を見たら、いつの間にか……。
くもり。
そらが、
ゆらり
ぐらり
くらい。
あつた。

幸太郎、小さくて丸いものを拾い上げる。

ネット
猫
ネット
カーコ
猫
ネット
カーコ
ネット
幸太郎

あめの
ように
きりり
ひかる
まるい
まるい
あめの
ような
ゆびわ。

雨。

幸太郎、指輪を見つめて、

幸太郎

恋人よ、僕のもとへ帰ってくる決意をした恋人よ……あなたとおそろいの指輪、見つけたんです復縁の証。もう見つけられんと思つていたけれども今、探し出したんです今、雨の中で見つけたんです。恋人よ、叙情的な情景に僕の恋人であるあなたの恋人はいて、満月が手品のようにおちてきたんです。その証拠に空に浮かんでいた満月は消え、ここ、まさにここに、このひらに、おちてきたんです。

カーコ、くちばしで、幸太郎の手のひらから指輪を奪う。

カーコ

キレイなこの飴のような丸い丸いこれをわたくしははじめて見たわけで、どうにもたまらず奪いとつて呑み込んだ。(指輪を呑み込む) 喉、ごしごしごつごつする間に走馬灯のようにババンタラランテンテコリンと、考え事のいくつかがまとまり手を繋ぎタンゴタンゴで脳にて舞姫舞姫、宴やがて酒池肉林のシナプスたち。脳みそそんな状態ですからなぜそれを呑み込んだのかもはやわたくしにもわからんですけど、どうしてもどうしても自分ものにしたかったからかもしれないですしこの世から消してしまいたかったのかもしれない、けれどもとにかく今こうしてつらつらとなんとかを語っているわたくしにとつて大事なことは幸太郎さんにとつて大事なものをわたくしの中に入れたことで、それ即ち幸太郎さんにとつてのわたくしが大事になるという論理。

ドン、という鈍い音。

カーコ

鈍い音は2重に聞こえてきていて、耳からと骨を伝って体の中からとで聞こえてきていて、聞こえた瞬間は一体全体何の音なのかわからんわけですが、一瞬のちに皮膚感覚「痛い」で気付かされました現在の状況、ぼーんとわたくし、まるでボールのように蹴りとばさていること、そしてそれがものすごいダメージであること。何度も何度も、幸太郎さんが、踏みつけている。はきだせ、はきだせと、踏みつけているわたくしの、からだ。

幸太郎が、カーコを踏みつけている。

カーコ

冷たい雨の中、幸太郎さんにとってのわたくしが大事理論、証明されずにデリート。大丈夫、大丈夫わたくしのからだには、魔法が書き込んであるから大丈夫、ぜんぶ大丈夫。幸太郎さん、たとえあなたであろうとも、あなたの大事なものを、渡さない。と決意して、見上げる。猫が、幸太郎さんに飛び掛っている。幸太郎さんが逃げていく。幸太郎さんが、逃げていく。

猫にやられて、幸太郎は逃げ去る。

猫

……大丈夫？

カーコ

うん、あやっぱ、ううん。ぜんぜん……むり。

猫

うん。

カーコ

痛い。

猫

うん。雨やどりできるとこ、連れていこうか？

カーコ

……ここにいます。

猫

うん。

カーコが一羽、雨の中。

カーコ

雨に打たれて、アスファルトに転がった飴玉が少しずつとけていく。幸太郎さんへの恋も、きえていく。ラブアンドピース、雨水にのっかって、下水管にながれこむ。さようなら、さようなら幸太郎さん。わたくしあなたのこと一生呪います、うらみませ。いつか仲間を連れてあなたの目玉つついてやります。生きながら餌にしてやります、できるだけみにくい死体にしてやります……って、言いたいの……ごめんさいやっぱりわたくし幸太郎さんが、すきです。すきですからいえません。

幸太郎が、戻ってきている。

幸太郎

返せ、吐き出せよ指輪。

カーコ

……あの、あの……

カーコ、おっこちていた飴玉を拾う。

カーコ

「まだすきです幸太郎さん、どうかこの飴をもらってくださいまだきれいですから」の、カー。カーの子音はK。Kを発音するための喉の筋肉をきゅつとしめようとした瞬間、蹴り飛ばされました再び、幸太郎さんにくわえていた飴も、わたくしが蹴り飛ばされるのと同じ方向へ、慣性の法則で飛んでいきました。現在のわたくしの飛距離約十メートル。

カーコは、幸太郎に蹴り飛ばされている。

幸太郎、カーコに近づいていく。

カーコ

まだ来る、やばい、死ぬ、死ぬのはやだ、やだ、やだから最後の力を振り絞って羽ばたく、重力しんどい、重力しんどい言いながら、五線譜の電線の、シの位置へ。

カーコは、電柱に避難している。

カーコ

すこしでも気を抜いたら落ちる細さな電線。まだ幸太郎さんこっちを見て。まだ、好き。好きです。だから、飴を……飴を……あれ、飴、ない。飴どこいった？ あ、そうか、慣性の法則でアスファルトころころ転がって、カーブミラーの根元に向かっている。もはやどうにもならんねこの状況、なんで未だにあげたいのか全然わかんない、全然わかんなくしてくるしくるしくてかきむしる身体。羽がはらはら抜けていく。一枚嘴でつかんで、器用にまるめた自分の羽は、真っ黒い、真っ黒い飴玉だ。

カーコの嘴には、真っ黒な飴玉。

カーコ

これでもいいかな、いいかなあ幸太郎さん、あげる、今飴をあげるよ。

幸太郎、カーコに向けて叫ぶ。

幸太郎

たのむからさっさと死んでくれ、死んで、落ちてきてくれ。

カーコ

……カー。

幸太郎

たのむよ、今すぐに、死んでくれよ。

カーコ

……カー。

幸太郎

返してくれよ……。

……ねえ……この飴玉は、ブラックホールなんです。ものすごい重力のブラックホール。小さいけど、ものすごい重力。お月様くらいなら、ぺろりと一口。この飴は、食べられません。食べられてしまいます。吸い込まれたら最期、もう、二度と出て来れません。幸太郎さんなんて、いなくなっちゃえばいいんだ。

舞台は、真っ暗闇に包まれる。
ややあつて、ネットが語り始める。

ネット

このお話にはつづきがあつて、それはカラスのカーコが毛を丸めた真っ黒な飴玉とカーコ流した涙が、万有引力にのっとりおんなじ速度で地面に落ちていく、その一瞬の話なんですけど、もしカーコが幸太郎の頭に飴玉ぼとり、もしくは涙がびちよんと落とそうとしていたのなら、雨がざんざか降りしきる中、しかも彼女のひどい精神状態からして、二階から目薬よりもずっと難しい確立なわけで、まあ、たしかに、幸太郎の半径1メートル以内にはそれは落ちなかつたんですけど、もう一つ、飴と涙の他にもカーコが落としていたものがあつて、それは、F・U・N、フン、カラスの白濁した汚らしいフンなんですけど、そのフンにももちろん同じ加速度がかかりますから、飴と涙とおんなじ速さで落ちまして、それがなんとまあ見事に幸太郎の頭部にぼちよんと落ちまして。もちろん雨がざんざかのことでしたので、幸太郎も気付かず家に帰っていったんですけど、私、知ってるんです。そのフンの中に、きらりと光るまあいい指輪があつたこと。カーコの体内に入った指輪が、いつの間にか幸太郎の頭にあるという奇跡……（死んでいるカーコに向けて）あんた最後に一個、奇跡起こしてたんだよ……。

おしまい

上演に関するお問い合わせ

成島秀和 narushimake@yahoo.co.jp